

# 陸上運動部部便り

2010年7月号

## 四大戦

### 目次

1	四大戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	1
1.3	女子主将の言葉	2
1.4	試合経過	2
1.5	試合結果	12
2	2010年度部内5傑 2010.7.3現在	16
3	自己記録更新者一覧 2010.6.14~7.3	18
4	主務より	18
4.1	応援OB・OG紹介	18
4.2	行事予定	19
4.3	訃報	19

## 1 四大戦

### 1.1 監督の言葉

#### 監督 藤田靖浩

フィールド最終種目の男子やり投、マイルリレーを残して総合得点は東京学芸大学と同点数の1位。国公立戦に引き続き総合優勝か、という展開でしたが最終的には一步及ばず6点差の2位。惜しくも優勝こそ逃したものの、非常に蒸し暑いコンディション、主管校という負担もある中、出場選手がみな良いパフォーマンスを発揮してくれた結果が出て、8月1日の七大に向けて良い流れが作れたと思います。

個人の主な結果を見ると、西田が100m、200m、4×100mR、走幅跳で四冠、青木が3000m障害で9'20"27で優勝し関東インカレ参加標準を突破。女子では久保木が100mHで15"12で関東インカレ参加標準突破、円盤投の武田も記録こそ33m54

にとどまりましたが今後の成長を期待できる投擲を見せてくれました。

七大戦まで残すところ4週間となりましたが、この好調を維持し、四年振りの優勝を目指して部員一同練習に励んでいきたいと思えます。

尚、6月19日の個人選手権の10000mWに早川が14'18"71で9位という結果でした。早川は9月の全日本インカレの標準記録も既に突破しておりますので、こちらもご期待ください。

### 1.2 主将の言葉

#### 主将 酒谷彰一

全力を尽くした結果の悔しい敗戦

過日行われました四大戦におきましては、男子は善戦はしたものの東京学芸大学に6点差で惜敗し2位という結果となりました。戦前の予想ではエースが強力な学芸大学に大差を付けられかねない状況でしたが、序盤の青木、西田の優勝を皮切りに、国公立戦の流れをそのまま引き継いだかのような奮闘を見せてくれました。個人では3000mSCで関東インカレB標準を突破して優勝した青木(年)、200m3位の真木(2年)、5000m優勝の宮野(3年)、走幅跳・三段跳2位の武安(M2)の活躍が光りました。そして忘れてはならないのが、100m、200m、走幅跳、4×100mRの4冠を果たし、大会MVPにふさわしい活躍を見せてくれた西田(4年)の存在です。彼の力が無ければ間違いなく今シーズンの東大の躍進はありません。

主管校として大会運営を兼ねながらの難しい大会となりましたが、個々人が持てる力を十分に発揮してくれたことと思います。

さて、今後は七大戦に向けてチーム一丸となって向かっていきます。各パート戦力は揃ってきていますが七大戦で得点のボーダーライン上にいる選

手が非常に多く、彼らの一層の奮起が優勝争いに加わる必要条件となります。特に七大戦は「チームの流れ」が非常に重要な大会ですので、今後は個々の力の底上げはもちろんのことチーム一体となった雰囲気づくりに努め、優勝を目指していきたいと思っております。

### 1.3 女子主将の言葉

#### 女子主将代理 鈴木恵美里

女子は昨年に引き続き総合2位の好成績で、七大戦に向けてよい流れを作ることができました。今大会は、試合直前の怪我により女子主将の高山(4年)が不在の中で行われました。試合1週間前のミーティングで女子主将が掲げた「少数精鋭の埼玉大学に食らいついていく」というチーム目標を各人が意識して試合に臨みました。結果として、部員数が増えバランスのとれたチームの利点を活かすことができただけでなく、個人レベルでも久保木(2年)が関カレ標準切りを果たすなど大きな収穫のある試合となりました。また1年生も日々の練習の中で徐々に調子を取り戻し、対校選手として得点するという結果を残すことができました。ただ怪我が完治していない選手も多く、今大会では課題の残った4×100mRなどを七大戦までにしっかり修正して、さらによりパフォーマンスにつなげていきたいと思っております。

今後、七大戦をはじめ大きな試合が目白押しですが、女子部員一同、力を合わせて戦っていききたいと思っております。これからも温かいご指導、ご声援をよろしくお願いいたします。

### 1.4 試合経過

#### トラック

##### 10:00 男子3000mSC 決勝

青木(3年)、渡邊駿(2年)の出場。2人はそれぞれ2、7番手の参考記録を持つが、少しでも点を稼いで勢いをつけたい所である。

天候は曇。蒸し暑い空気に包まれて、レースはスタートした。青木が先頭に立ち、渡邊は4番手につけた。やがて青

木と東学大の三上が並走する形になり、1000mを3'08"で通過した。渡邊は1秒差で通過した後、先頭と10m程度離され集団は縦長になった。しかし、渡邊は気持ちを切らす事なく前を追い、リズムを取り戻し始める。先頭は変わらず青木と三上であり、先頭集団は3人に絞られた。渡邊は4番手で独走の形に。レースは流れ、青木は2000mを6'17"、渡邊は6'22"で通過した。この辺りから青木は三上との一騎打ちとなる。渡邊はOPの選手を捉え、独走態勢で懸命に前を追う。そして迎えたラスト1周。場内には鐘が鳴り響く。青木は三上と激しい競り合いを繰り広げ、このまま直線勝負かと思われた。しかし、水濠手前の障害でレースは動いた。三上の走りが急に乱れたのである。青木は華麗なスパートを決め、9'20"27の1位でゴールした。2位との差は5秒であった。一方、渡邊は最後の水濠でバランスを崩すも持てる力を出し切り、ゴールを駆け抜けた。9'42"09の4位となる見事な走りであった。

結果として青木は8秒、渡邊は16秒も自己ベストを更新し9点を稼ぐ素晴らしいレースとなった。今日の走りを次に繋げ、より一層の飛躍を期待したい。

##### 10:20 男子100m 決勝

2レーンに春日(3年)、6レーンに西田(4年)の出場。朝からの決勝であるが、2人とも十分な準備をして臨んできたはずである。

全選手がほぼ横並びでスタートを切る中、春日がやや出遅れたか。隣の選手に先を行かれて焦ってしまい、少し動きが硬い。持ち前のスピードで両脇の選手は大きく離すが、中央のレーンに集まる選手たちには及ばず、11"24の4位でゴールする。

一方、優勝候補の西田は、まずまずのスタートを切り、前半から飛び出す。中盤で4レーンの選手に前に出られるが、余裕のある西田はリラックスした走りを

続ける。そして、最後の20mから驚異の追い上げを見せ、フィニッシュライン際でトルソーを突き出し、2位と100分の1秒の差で10'90の1位でフィニッシュ。今大会最初の優勝であり、今後の競技に勢いをつける勝利であった。このとき、風は向かい風0.8mであった。

#### 10:35 女子100m 決勝

3レーンに久保木(2年)、8レーンに高橋(M2)の出場。6人が出場するこの種目で、2人とも両端のレーンでのレースとなった。1人でも2人でも多く抜いて、得点を挙げたいところである。

中央のレーンの選手がいいスタートを切ったため、久保木は少し出遅れたように見えた。しかしSDが得意な久保木は、序盤は他の選手と横に並ぶ。一方の高橋はスタートから早々と先頭集団から離されてしまう。久保木はそのまま良い順位をとりたいたところだったが、次第に他大の選手から離されていく。少し顎を上げて、苦しそうな走りになり、懸命に追いかけるが、追いつけない。13'27の5位だった。高橋は最後まで上位争いに食らいつくことができず、13'84の6位でゴールした。向かい風1.5mであった。

多種目出場することが多い久保木にとって、後半のスタミナをつけることが喫緊の課題だろう。高橋は、ベスト記録が13'60であることを考えると、蒸し暑さと向かい風の中でこのタイムを出せたのは悪くないのではないだろうか。

#### 10:55 男子800m 決勝

5レーン渡邊(4年)、7レーン近藤(4年)の出場。湿度は高いものの、曇り空で走りやすい天候。近藤は急遽選手交代での出場が決まり、渡邊も大会総務代理の激務でほとんどアップができない中、お互いにベストとは言えない状態でレースに臨む。

スタートは2人ともスピードを上げず、後方の位置につけたが、徐々に順位

を上げて400mの通過では渡邊は5番手、近藤は6番手につける。この時点で既に近藤はやや離される。前を追う渡邊は600m付近で2人を交わして3番手となり、最後のホームストレートでも先頭の2人との差を詰めるが、あと一歩及ばずフィニッシュ。1'57'47の3位であった。近藤も後方から追い上げ、最後のホームストレートでは前の東学大の選手にほぼ並ぶ形でフィニッシュするが惜しくも及ばず、2'01'74の6位であった。

渡邊は、満身にアップできない中でも安定した走りをみせ地力を伺わせた。近藤も、うまく調整ができていない中でもセカンドベストを出し、次のレースに期待がもてる走りであった。両者とも消極的なレースではあったが、結果としてはまずまずのものであっただろう。

#### 11:05 女子800m 決勝

2レーンに浜松(2年)、5レーンに増田(1年)の出場。記録上位選手が欠場したため、浜松には優勝が、最近ベストを更新し勢いに乗る増田にも上位入賞が期待された。

スタートするとOP出場の選手が先行する形になったが自分のペースを刻みたい浜松は上手く先頭に立ち、落ち着いて入った増田は5番手につける。そのままの形で浜松は71'、増田は73'で余裕を残して400mを通過。鐘が鳴るとOPの選手が一旦先頭に立ち、集団が2つにわかれた。浜松は先頭集団で2番手に下がるが、600m過ぎからスパートをかけて抜くと、ラストはピッチを落とさずに他の追従を許さず2'23'89の好タイムでゴールし優勝を決めた。増田は2つ目の集団の中で順位を上げ、先頭集団には離されたものの最後までペースを保ち、2'32'39でゴール。先頭集団は浜松とOPの2人で構成されていたため増田は対校2位となり、東大はこの種目でワンツーフィニッシュを果たした。

浜松はベストには惜しくも届かなかっ

たもののがかなり良い感触でレースを終えることができ、増田も後半1人でペースを刻んだ展開にしては好タイムと言えるので、更に練習し七大戦での活躍に期待したい。

#### 11:15 男子 400m 決勝

5レーンに拙島(3年)、6レーンに大澤(2年)の出場。天候は曇りで気温、湿度ともに高い中でのレースとなった。国公立戦では勝ち越している種目だけに期待がかかる。

大澤は前半から積極的なレース展開を見せる。スタートから飛び出し、大きなストライドで軽快にバックストレートを駆ける。埼玉大の選手とトップ争いをしながら最終コーナーを抜けるも、ホームストレートで失速し、じわじわと離される。同時に後ろから東学大の選手が迫るも、なんとか逃げ切り49"88の2位でフィニッシュ。拙島は400系の練習が積めていないこともあり、やや抑え気味のスタートを切る。しかし、加速に乗れず、あまりスピードが出ないまま体が起きてバックストレートを抜ける。後半ギアを切り替えて巻き返しを図り、前を行く選手に追いつくも、健闘むなしく50"99の5位であった。

湿度が高いこともあり、コンディショニングの難しい試合であった。両選手ともその難しさを痛感したであろう。この反省を次に生かし、どんなコンディションでも良いパフォーマンスを見せることができるよう期待する。

#### 11:30 女子 400m 決勝

1レーンに堀越(D5)、3レーンに鈴木(1年)の出場。天候は曇りで気温、湿度ともに高い中でのレースとなった。

堀越は国公立戦の反省を生かし、前半はやや抑えぎみに入り、余力を残したまま200mを通過する。250m地点を過ぎたあたりで一気にスピードを上げ、前を行く選手たちとの差をぐんぐん詰めてい

き、1'03"50の4位でフィニッシュ。シーズンベストであった。

鈴木はスタートで反応がやや遅れるも、テンポの良い走りでスピードに乗ってバックストレートを抜ける。200m地点を過ぎたあたりで失速し、そこから必死で粘るも差はじわじわと広がり、1'06"02の6位でゴールした。

堀越は前回の反省点をうまく改善し、シーズンベストを記録することができた。鈴木はレースプランを模索する中で、積極性のある走りを見せ、次回に期待の持てる内容であった。

#### 11:50 男子 110mH 決勝

2レーンに増本(4年)、4レーンに酒谷(4年)の出場。持ちタイムでは14秒台の選手もいる中、どのようなレースを展開するのか楽しみである。このときのグラウンドのコンディションは31、湿度53%で蒸し暑い気候であった。

号砲が鳴りスタート。スタートは2人とも問題ない。1台目の入りは先頭はほぼ一線。酒谷もしっかりついていっている。増本はここで若干差をつけられたか。中盤に入り、酒谷は気持ちの良いピッチでうまくスピードに乗るも、隣の群大の武井が集団から抜け出していく。増本もミスなくハードルを通過していくが、上位とは少しずつ差がついていく。そのままの流れでレースは終盤に達し、酒谷は15"31の3位、増本は15"94の6位でゴール。このときの風は-1.3mであった。

結果だけを見ると東大に限らずどの選手もミスなく走り、持ちタイムの順番に順位もついたようであった。次はランキングをひっくり返すような驚きのレースを期待したい。

#### 12:10 女子 100mH 決勝

3レーンに高橋(M2)、4レーンに久保木(2年)の出場。コンディションは男子のときと同様蒸し暑く、向い風も若干吹

いている。出場選手は5人だが、持ちタイムでは他校の3人のほうが上なので、どれだけ前を食っていけるか。

久保木は良いスタートを切り一台目もうまく入った。高橋はここで少し出遅れてしまった。中盤に入るとやはり14"06が持ちタイムの中嶋(東学大)が抜け出していく。しかし久保木も粘り、後半にかけては良いピッチでスピードを上げていく。高橋も先頭からは遅れてしまったが、しっかりインターバルを走っていく。順位は変動せずそのままゴールし、久保木は15"12の3位、高橋は16"81の5位という結果になった。このとき風は-0.4mであった。

ここで久保木の出した15"12というタイムは関東インカレの標準記録を突破する好タイムであった。この大会を弾みに今後の大会でのさらなる記録更新が期待される。

#### 12:20 男子 1500m 決勝

池田(3年)、大内田(2年)の出場。池田は最近調子が悪く暑さに弱いこともあり、今の自分の力をしっかり出し切れるかどうかは課題である。大内田は前回の国公立戦から調子を上げてきているので前評判を破る走りをしてもらいたい。

スタートから大内田が先頭にたち、池田は集団の3番手あたりにつける。そのままレースは進み、1周目の通過は67"。池田がポケットされ外に出ることもできずに、次々に前に入られていき順位を落としてしまうが、そのまま落ちてしまうことはなく700m過ぎで外にでて前に食らいついた。2周目も大内田が先頭で通過し、ラップは68"。900mを超えたところで集団のペースが上がり、全員がラストの切り替えの準備をしていることが分かる。ラスト400mの鐘が鳴り、埼玉大、東学大の選手が大内田を抜いて飛び出す。その後大内田は埼玉大の選手を抜き返すものの、東学大の急激なペース変化についていけずおいていかれてしま

い、ラスト200mで群大に抜かれ、さらにラスト80mでも群大に抜かれてしまい、4'08"41の5位でゴール。池田はラスト400mで前と離れてしまうが、最後まであきらめずに走りラスト50mで埼玉大をさして4'09"81の6位でゴール。

東大はこの種目で3点を獲得。典型的なスパートがものをいう試合であった。大内田は今回自分自身でそのような苦手な展開に持ち込んでしまったことはしっかり反省すべきである。様々な展開を想定しつつ自分のレースができる、さらに上のレベルにいけるだろう。次の対校戦である七大戦では池田とともに積極的な走りを期待したい。

#### 12:35 女子 1500m 決勝

立岡(2年)、杉本(1年)の出場。天候晴れ、気温、湿度共に高く、非常に厳しいコンディションである。

レースがスタートすると東学大の選手がすぐに飛び出す。杉本は3番手、立岡は5番手につく。学大の1番手が飛ばし、残り第2集団が形成される。しかし序盤から立岡が遅れ始める。第2集団の400m通過は84"。450mを過ぎて杉本が第2集団の先頭に立ち積極的にレースを引っ張る。900m通過地点で立岡が4番手を食う。依然として杉本は第2集団を引っ張っており、群大と競り合い、立岡も埼玉大との勝負となる。1200m過ぎに杉本がスパートをかけ始める。群大との一騎打ちとなるが、ラスト100mのスプリント勝負で惜しくも敗れ、5'24"79の3位でゴール。一方立岡は埼玉大に残り50mで一旦は抜かれるも、ラストで抜き返す粘りをみせ、同タイムながらも先着し5'33"17の4位でゴールした。

杉本は最近の練習でも積極的な走りを見せており、それが今回の好記録につながった。一方立岡は調子を崩していただけに、本人も不安だったようだが、それでも、最後まで諦めないよい走りをみせてくれた。

### 12:45 男子 200m 決勝

2レーンに真木(2年)、5レーンに西田(4年)の出場。暖かく、風もほとんどないコンディションの中、順位・記録共に好結果が期待される。

スタートから西田が持ち前のスピードを見せ、他の選手を引き離し、真木は2位争いを3レーンの樋口(埼大)と共に繰り広げる。直線に出たところで西田がリードを奪うが、100m・走幅跳を戦った疲れがここで現れ、カーブの出口で上がってきた樋口に差を詰められる。グングンと樋口が迫ってくるが、西田はここで粘りを見せ、最後は100分の3秒差で樋口をかわしてゴール。真木は直線に入って樋口に差をつけられるも、それに続くように直線に入って上がってきた6レーンの三村(東学大)は前に行かせることなくゴール。西田は22"16の1位、真木は22"55の3位であり、このとき、風は+0.1mであった。

両者合わせて10点をもぎ取り、西田は自己ベスト、真木は100分の5秒ベストには届かなかったもののそれに近い好タイムを出した。七大戦に向けたよい追い風となるだろう。

### 13:00 女子 200m 決勝

3レーンに鈴木(1年)、8レーンに堀越(D5)の出場であったが、鈴木は直前に足を痛め、リレーや400mに出場することも考慮して棄権し、堀越のみの出場となった。他の選手は全員25秒台の参考記録を持っており苦戦が予想されるが、少しでも差を詰め、自己記録を目指してもらいたい。

2レーンにオープン参加の斉木(東学大)を入れ、6人でのスタートとなったレースは、スタートから4レーンの五味(東学大)、7レーンの菱沼(埼大)らが抜け出し、堀越はそれを追う展開となった。直線に入り、2レーンの斉木と競り合う形となるが、後半詰め切れずにそのまま

6着(対校選手の中では5位)の28"13でゴール。このとき、風は-0.5mであった。

今季400m系の練習を中心にしていた為か、カーブでスピードに乗りきれなかった堀越。しかし四大戦という舞台で2点を掴み取ったその勇姿は、今も我々の目に焼き付いている。今回残念ながら棄権した鈴木(1年)の復調と共に、今後の活躍を期待したい。

### 13:10 男子 400mH 決勝

1レーンに赤木(4年)、8レーンに高木(3年)の出場。赤木は1レーンという不利があるものの、国公立戦では今季のベストをマークしてしており、今回更なる今季記録更新を期待したい。高木は、国公立戦であまりよいタイムを出していないだけに、好タイムを出したいところである。

赤木は号砲に対してはまずまずの反応を見せると、1~3台目まではスピードを抑えて軽快に走る。4、5台目付近で外レーンの選手に追いつく。しかし、6台目以降じわりじわりと間を広げられ、7台目のハードルもバランスを崩した。ラストのオープンストレートにも前を走る選手との差を縮めることができずに、56"98の7位でフィニッシュ。

高木は勢いよく飛び出して、1台目をスムーズに超える。しかし、2台目でハードリングが浮いてしまい減速する。そこから必死でスピードを上げようと試みるが、なかなかスピードに乗ることができずにバックストレートを抜ける。コーナーから直線にかけても他の選手から少しずつ差が開き、結局56"99の8位でゴール。

東大はこの種目で得点できずに終わった。赤木は最後の直線であがってくる持ち前の粘り強いスパートが見られず、精彩を欠くレースとなった。高木もいつもの前半から積極的に飛ばしてスピードに乗るレースができなかった。次の試合で

は自分のレースができることを期待したい。

### 13:35 男子 5000mW 決勝

早川(4年)、瀧川(2年)の出場。早川は関東インカレ2部で4位と悔しい思いをしたが、2週間前の日本学生個人選手権で9位となり自信を取り戻していた。また、瀧川は関カレ、国公立戦と堅実に得点を稼いでおり、今回も粘りのある歩きが期待された。しかし、東学大は昨年の全カレ入賞者2人がエントリーしており、この2人にどこまで食らいつけるかが勝負の鍵になるだろう。天候は曇りでこの時期にしては良いコンディションなので、ハイペースでのレースが予想された。

スタート直後、東学大の2人が飛び出し、OP出場のOBを含む東学大勢3人が先頭集団を形成し、少し離れて東大OBの明石、春木を含む東大勢4人が第2集団を形成した。800m付近で瀧川が集団から遅れだしたが、早川は安定したペースを刻み1200mあたりで先頭集団に追いついた。瀧川はここから1人旅となってしまう苦しい展開となった。早川は東学大勢に食らいついていたが、2500m過ぎから徐々に離されてしまった。明石がいいペースを作り、東学大の2人はそのペースにうまく乗っていくので差は広がっていく。4000m付近で東学大の1人が先頭から離れ始めたが、早川との差はすでに50mほどあり、追いつくには厳しかった。結局、早川が21'23"56(NGR)の3位、瀧川が22'47"91の4位でフィニッシュ。

結果的に東学大の速いペースで押していく作戦にやられてしまった格好だが、早川は大会記録、瀧川も22分台の好記録でゴールしており、今後期待をかける結果といえるだろう。早川には全カレでの活躍を期待したい。

### 14:15 男子 4 × 100mR 決勝

3レーンに増本(4年)-西田(4年)-真木(2年)-春日(3年)の順で出場。各選手、今シーズン調子を上げてきており、2走に今大会100m、200m、走幅跳で3冠を達成したエース西田を擁する東大は、参考記録では埼大、東学大に劣るが、1位も十分に狙える。

号砲が鳴る。1走の増本はスタートでやや遅れるも、安定した走りで先頭に離されることなく食らいついていったが、西田とのバトンパスで少しもたついてしまった。2走の西田は余裕が感じられる走りで一気にトップに躍り出る。そのまま先頭をキープし3走の真木にバトンを渡すも、真木のスタートがやや早かったか、スムーズなバトンパスとはならなかった。しかし、真木は2位の選手に少し詰められるも得意のコーナリングでしっかりと先頭をキープ。4走の春日にスムーズにバトンが渡ると、春日は猛然と迫ってくる2位の埼大に距離を詰められるも、懸命のスパートで間髪逃げ切って1位でフィニッシュ。

記録は42"34であった。バトンパスが完璧とはいかない中1位をとったのは見事である。七大戦では41秒台も十分に狙えるだろう。

### 14:20 女子 4 × 100mRm 決勝

3レーンに武田(1年)-久保木(2年)-浜松(2年)-鈴木(1年)の順で出場。国公立戦の時のメンバーを変え、1、2年のみで挑んだ今大会は本来の1走である鈴木(2年)が欠場し、代わりに武田が出場。各区间でのバトンパスに不安を残すレースとなったが、今大会の100mHで関東インカレB標準を切り、好調である久保木がどこまでチームを引っ張れるかが見どころであった。

号砲が鳴る。1走の武田は慣れないリレーの出場の為か、スタートで遅れをとってしまい、1、2位からはかなり離されてしまうが、バトンパスに大きなミスはなかった。2走の久保木はエースら

しい走りで3位の群大との距離を詰め、3走にスムーズなバトンパス。浜松は安定した走りで久保木の勢いのまま一気に群大に追いつき、ほぼ並んだまま4走の鈴木にバトンパス。ここでも大きなミスはなく、鈴木は群大と3位争いを演じ、懸命のスパートの末、わずかに群大をかわし、3位でフィニッシュ。結果は53'59であった。

本来のメンバーでなく、十分にバトンパスの練習ができなかった状態を考えれば3位は立派だと言える。鈴木(2年)が復活すれば七大戦では更なる記録が狙え、好順位が狙えるだろう。

#### 14:30 男子 5000m 決勝

宮野(3年)、東(3年)の出場。気温が32度まで上昇し、選手にとっては厳しい環境下での試合となった。宮野は6月27日に行われた大阪選手権 10000mにおいて優勝、東は6月13日に行われた国公立戦 1500m、5000mにおいて2位になっており、大量得点も見込め、応援にも力が入る。

レースは終始1000m3分を越えるペースで進む。800m付近から先頭は宮野、東、福井(東学大)の3人に絞られ、代わる代わる先頭を引っ張る展開となる。暑さのため、選手は何度も給水を取りながらの試合となる。2700m付近で宮野がペースをあげると東は徐々に離されてしまう。それに気づいた宮野はペースを落とそうとするが、今度は福井がペースを上げたため、2人での争いとなる。宮野がラスト1周でスパートすると福井は一気に離され、最後は10秒ほど差をつけて15'03"49で1位。ラスト1000mは2'53"まで上がり、見事なスパートであった。東は暑さのため本調子とは程遠い走りとなってしまったが、15'29"13の3位であった。

この種目で東大は10点を獲得し、大いに盛り上がった。七大戦では今回より厳しい戦いが予想されるが、猛暑の中で

も力を発揮できるよう練習を積んでいかなければならないだろう。

#### 15:10 女子 3000m 決勝

鈴木(3年)、杉浦(2年)の出場。1名が棄権し5名の出場で行われた。曇りではあるが蒸し暑い中でのレースとなった。

スタートして間もなく、東学大の2名が抜け出し、鈴木、杉浦は埼大の一人とともに3位集団につけた。その後、東学大の一人はそのまま独走状態となるものの、3位集団は800m付近でもう一人の東学大選手に追いつく。1000mを過ぎたあたりで埼大の一人は集団から離れる。以降、集団は鈴木、杉浦と東学大の1名となり、1周92"程度のペースを維持した。ペース、順位ともに安定していたレースが動いたのはラストの1周だった。鐘が鳴ったところで東学大がスパートをかけ集団から抜け出した。続いて杉浦もスパートをかけ鈴木を抜く。バックストレートでは杉浦と鈴木の間にやや距離ができたが、最後の直線に入ると鈴木が一気に杉浦を抜き、ゴールした。最終的に、鈴木は11'13"75の3位、杉浦は11'17"13の4位でのゴールだった。

両選手ともに終始、集団から大きく離れられず、粘り強いレースとなった。また今回、鈴木は自己ベスト記録の更新を果たした。両選手とも七大戦での活躍が期待される。

#### 15:30 男子 4 × 400mR 決勝

四大戦ラストのトラック種目となる男子のマイル。最も内側の3レーンに真木(2年)-増本(4年)-舩島(3年)-大澤(2年)の走順で出場。参考記録は3'20"76である。

1走の真木は悪くない走りを見せたが他の大学からわずかに間を離されてしまう。続く2走の増本も第2曲走路あたりまで4番目であったが、最後の直走路で一気に差をつめ他の大学に追いつき、3番目でバトンを渡した。3走の舩島は前

半は落ち着いた走りでの前の走者についていったが、後半から直走路にかけて凄まじいスパートをかけ、トップに躍り出るか否かのところまでもっていき、バトンパスした。4走の大澤は粘り強く走り、1位でゴールせんとするが、第2曲走路で埼大が猛烈な走りでのトップにたった。大澤が必死にそれに食らいつこうとするも離されてゆき、最後は3'19"83の2位でゴールとなった。

今回のレースは1走から3走までどの大学ともあまり差が開かない混戦状態であったが、最後の走者で一気に距離が開くというレース展開になった。東大は惜しくも埼大に敗れ2位となったが、3'20"を切るタイムであり悪くない結果といえる。この勢いを保ちつつ1ヶ月後の七大戦も健闘してほしい。

## フィールド

### 10:30 男子走幅跳 決勝

武安(M2)、西田(4年)の出場。この梅雨の時期、幸運にも雨は降らず、また風も穏やかという状況で試合が始まった。

武安は最高のボディコンディションで無い中でも意地の跳躍を見せ、2跳目に6m71、6跳目に6m73を記録。特に6跳目は向風1.5mであったため、更なる実力を垣間見る事ができる。西田は最近の試合で好調を見せており周囲からの期待がある中、2跳目で7m02をマーク。期待に答えたと言って良いだろう。しかし、100mに出場し体力が削られていたせい、その後の跳躍はふるわなかった。

結果、西田が7m02で1位、武安が6m73で2位となった。東大は走幅跳で2トップを占め、七大戦に向けていいスタートがきれたと感じる。しかし、七大戦は学部生での戦いであり、武安は出場出来ないため、西田を筆頭として下級生の戦力UPを念頭に置き7月の間練習に励んで欲しい。

### 10:30 女子走幅跳 決勝

丹家(2年)、武田(1年)の出場。この日、腰痛で会場に来ることのできなかった高山に代わり、丹家が出場することとなった。二人とも大学でのこの種目への出場は初めてだが、今回は出場人数が5人だけなので、丹家は記録を残して点数を取ることを目標に、武田は円盤投との同時進行ではあるが、今後のため経験を積むことを目標とした。

丹家は過去に出場経験もなく走幅跳の練習をほぼしていなかったため、やはりうまく跳躍をすることができない。1跳目はファールとなる。2跳目は3m74を記録する。この後、記録は伸びず、これが決勝記録となった。

武田は同じ時間から始まる円盤投にも出場するため、ピット間を往復することになった。1跳目は4m58を記録。円盤投の試技順まで余裕があったため、2跳目に挑戦。しかし記録は伸びず、4m46であった。この後、一度ピットを後にしたが、繰り下げでなんとか3跳目に間に合い、ここで4m54を記録。ここからは円盤投に集中するため途中棄権することにした。

結果、武田が4m58で4位、丹家が3m74で5位となった。丹家は今後出場予定はないが、補欠に名前を入れたからには責任を取らなくてはならないということを理解する良い機会になったのではないだろうか。武田は今回は円盤投との兼ね合いで厳しい試合となったが、5mを越える持ち記録があり、今後期待ができる。七大では高山の復帰に期待するのはもちろんだが、若い世代の成長にも注目したい。

### 10:30 男子円盤投 決勝

佐々木(2年)と片山(2年)の出場。出場選手は6名であったが、そのうちエントリー記録が34m~38mの選手が4名おり、なかなかレベルの高い試合になると予想された。佐々木には優勝、片山に

は関東インカレB標準である32mの突破がそれぞれ期待されていた。

佐々木は1投目から無難な投擲をみせトップに立った。2投目には37m13をマークし、その後は記録を伸ばせなかったものの見事優勝を果たした。片山は普段練習してきた攻めの投擲が全くできない。終始ふるわず、30m前後の投擲しかできなかった。結果記録は30m49で5位であった。

佐々木は優勝はしたものの、ここ暫くベストの更新がないので一層の努力でこのスランプを乗り切ってもらわなければならない。片山は関東インカレB標準の突破は次の試合に持ち越される事となり、残念な限りではあるが、今後の更なる進化の糧としてもらいたい。

#### 10:00 女子円盤投 決勝

楠木(M1)、武田(1年)の出場。4人のみのエントリーであり、出場すれば確実に得点できる条件であった。特に円盤投を専門とする武田には、上位入賞が期待された。

楠木は特に円盤投の練習もしていないため終始マイペースで臨み、1投ごとに姿勢を研究しながら徐々に記録を伸ばしたが、勝負に絡むことはできず、20m32で4位であった。武田は同時刻の走幅跳にも出場していたため1投目をパス、2投目から参戦した。まずは立ち投げで確実に記録を残し、3投目で33m54に記録を伸ばす。ターンのスピードアップをはかって強気で臨んだ6投目では自己記録に近い位置に円盤が落ちたものの、惜しくもファールとなり結局33m54の2位であった。

楠木は練習のあまり出来ていない中で、確実にチームに得点を入れてくれた。武田は他種目と並行しながらも、国公立戦に引き続き確かな実力を示してくれた。円盤投が対校種目にある試合は少ないが、果敢に記録に挑戦していき、レベルの高い大会を目指してほしい。

#### 10:40 男子棒高跳 決勝

持永(D1)、原(4年)の出場。風も強くなく、心配された雨も降らず、跳ぶには良いコンディションであった。5人の参加ではあったが、他大学のレベルが高く、原は確実に記録を残して得点を入れること、持永はあわよくば東学芸のどちらかに勝ちたい、というところであった。

原は3m20から試技開始。調子はあまり良くなく、いつもより握りを下げてはいるが、1本目でしっかりと跳ぶ。続く3m40も1本目は助走が合わなかったが、2本目で危なげなく跳ぶ。3m60はもう疲れてきたのかさらに助走が合わなくなり3本とも失敗。3m40で競技終了。

持永は開始高さの3m60は問題なく跳んだが、3m80では助走が合わず1本目は失敗。2本目は助走も合い、越える。しかし4mは疲れが出てか、助走にキレがなく1、2本目と失敗。3本目はそれまでの2本よりはよかったものの高さがあまり出ず失敗。3m80で競技終了。

二人ともいつも通りの記録ではあったものの、東学芸の一人が負傷のために途中棄権したので、得点としては東学芸に2点勝つことが出来た。

#### 12:40 男子砲丸投 決勝

佐々木(2年)、片山(2年)の出場。天候はくもりであったが、気温は高く、蒸し暑い中での試技であった。持ち記録から考えると10mは飛ばさねば得点を得ることができないことがわかっていたので、佐々木、片山両選手ともベストを更新する投擲が期待された。

佐々木は円盤投から続く不調を脱することができず、得意の回転投げで果敢に挑戦したが3投目までで9m40であった。4投目に9m42を投げたが残り2投はファールとなってしまう、結果は7位であった。片山は前半3投を思い切り投げることができず、8m83で折り返す。5投目に9m64を投げたが6位で試技を終

えた。

今回の結果は、チームの足を引っ張っていると言われても仕方のないものだった。今後はもっと積極的に砲丸投に取り組んでいかなければならないし、切磋琢磨してほかの選手も含めて対校戦でより活躍できるような力をつけていきたい。

#### 12:40 女子砲丸投 決勝

楠木 (M1)、武田 (1年) の出場。他校の選手は全員自己記録が 10m 以上であり、厳しい展開が予想された。今後も対校戦で砲丸投に出場していく武田と、砲丸投を専門とする楠木には、まず他の選手を気にせず今の実力を発揮することが求められた。

武田は 1 投目で自己記録に近い 8m95 を投げるも、その後の試技で大きくフォームを崩す。そこからは完全に自分の投擲を見失った様子で、記録を伸ばすことができないまま結局 8m95 の 5 位であった。楠木は練習では立ち投げで 8m を投げ、調子の良さをうかがわせた。1 投目はバランスを崩すが、2 投目には 8m50 を投げ、今季の自己記録に乗せた。しかし、その後は練習不足がたたり軸のぶれが目立ち、結局 8m50 の 6 位であった。

5 位と 6 位は悔しいが 2 人とも今の実力に相応な結果であった。4 週間後の七大戦に出場する武田は、記録の近い阪大の選手 2 人に勝てるように、気合を入れて今後の練習に臨んでほしい。

#### 13:30 男子走高跳 決勝

坂本 (4年)、地子 (5年) の出場。今回初めて高跳用のスパイクを履いて臨んだ地子は 1m60 から競技を開始し 1m70 では余裕をもってクリアした。1m75 も 2 回目で成功し、自己ベストを更新した。続く 1m80 は 1 回目が惜しかったものの、疲れが出てか跳ぶことはできなかった。七大戦での 1m80 に期待。

最近不調だった坂本だが 1m70 から 1m80 まで 1 回も失敗することなくクリ

アした。1m85 は 3 回とも惜しかったが失敗してしまった。坂本は助走のスピードを上げたことに対応出来てきたので、ここからまた調子を上げてくるだろう。

結果、坂本が 1m80 で 3 位、地子が 1m75 で 4 位で 7 点を獲得した。

#### 13:30 女子走高跳決勝

久保木 (2年)、丹家 (2年) の出場。午後 1 時半、非常に蒸し暑い中での試合開始となった。

久保木はこの日、既に 100m、100 m H へ出場しており、疲労が見られる。練習跳躍を最小限にし、1m40 から跳躍を開始。1m40 は 1 本目で成功。続く 1m45 はやはり疲れが見え始め、勢いが出ずバーの上に落ちてしまうような跳躍となってしまう。結局、この高さをクリアできなかった。この後、4 × 400mR への上場も控えていたため、早急にピットを後にした。

丹家は 1m35 から跳躍を開始、1m45 までを 1 本目で成功する。続いて、自己ベストタイの 1m50 に挑戦。1 本目は失敗したものの、跳べそうな感覚があった。2 本目は助走が乱れ、失敗。3 本目はおいしい跳躍であったが、結局クリアならなかった。

結果、久保木が 1m40 で 4 位、丹家が 1m45 で 3 位となった。久保木は多項目出場の中、確実に記録を残し大いにチームに貢献したと言える。丹家は、1m45こそ確実に跳べるようになったものの、記録が伸びない日々が続いている。ここでやる気を失わずに、ちゃんと練習し、調子を上げていってほしい。七大では、うまくいけば 2 人とも入賞可能な実力があるので、両選手の活躍に期待したい。

#### 13:40 男子三段跳決勝

武安 (M2)、廣瀬 (5年) の出場。定金 (4年) は怪我のため欠場。幸い雨は降らなかったが、梅雨特有の蒸し暑さの中競技が行われた。やや向かい風が吹いてい

た。

今回の試技は対校選手全員が6本跳ぶ形で行われた。武安は序盤こそ本調子ではなかったものの、徐々に跳躍を修正していき、6本目で14m01を記録した。惜しくも1位の選手の記録に3cm及ばず、2位に終わった。廣瀬は体調不良のせいか足が合わず、4本連続でファールをしてしまった。5本目でようやく白旗が上がったが、記録は自己ベストに程遠い13m37。これが決勝記録となった。しかし他校の選手の跳躍が振るわなかったため、3位となった。

悪条件の中の試技ということもあり、全体的に良い記録が見られなかった。今回は対校選手として出られる学部生がいなかったため、院生である武安に無理を言って出場してもらった。しかし今後の試合のことを考えると、若い選手が力をつけていかなければならない。7月末に行われる七大戦に向けて、オープン出場した選手も含めて各個人がしっかりと反省をし、最高のパフォーマンスを披露できるようにしたい。

#### 14:00 男子やり投 決勝

千葉(4年)、山元(1年)の出場。千葉は肘の怪我が回復してからの久しぶりの試合であり、どこまで調子を戻しているかが注目された。山元は大学2試合目であり、思い切った投げが期待された。競技場コンディションは、曇りであり風がなく大変蒸し暑かった。

1投目は千葉が47m92とまずまずの投擲を見せた。2投目以降の記録更新が期待されたが、記録を伸ばすことができず6位で競技を終えた。山元は1投目は失敗に終わったが、2投目に46m43と記録を伸ばした。3投目以降は、他大学の選手が記録を伸ばす中で失敗の投擲が目立ち、記録を伸ばせず8位で競技を終えた。

千葉は怪我明けにしてはそれなりの記録を残した。一方、山元は期待されたよ

うな思い切った投げができなかった。このままでは次の七大戦では戦えないが、両者ともに課題は多く伸びしろが大きい。ため、今後しっかり練習を積み、七大戦での飛躍に期待したい。

#### 14:00 女子やり投 決勝

高橋(M2)、楠木(M1)の出場。出場種目数制限のために投擲の武田が起用できないのが痛手であったが、全出場者が8人では何が起こるか分からない。短距離の高橋を起用して1点も取りこぼさない態勢で臨んだ。

高橋は100m、100mHの疲労もあり、思うような投擲ができない。3投目で15m64を記録し、この時点で8番であったが、元々混成の経験がある選手であり、7番手との差が3mと僅差であったため続投に踏み切った。結局順位は覆せなかったものの、5投目に記録を伸ばし16m54の8位であった。楠木も円盤投、砲丸投で集中力が途切れたのか、やりを真っ直ぐに投げることができない。前半3投を終えた時点で6番であった。その後も記録を伸ばせなかったものの、幸い順位の変動がなく、20m63の6位であった。

2人ともこれが3種目目であり、専門外でもあったが、1点のためになりふり構わず競技に臨んだ姿勢を評価したい。

### 1.5 試合結果

第35回国立四大学対校陸上競技大会

第17回国立四大学対校女子陸上競技大会

於 上尾運動公園陸上競技場 (H22.7.3)

#### 男子 100m 決勝 (-0.8)

1	西田昂広	東大	10"90
2	樋口智彦	埼大	10"91

3	石原寛之	東学大	11"11
4	春日慶輝	東大	11"24
5	神瀬龍平	埼大	11"31
6	丹治宏樹	東学大院	11"37
7	朝比奈達也	群大	11"94
8	金森淳史	群大	12"22

## 男子 200m 決勝 (+0.1)

1	西田昂広	東大	22"16
2	樋口智彦	埼大	22"19
3	真木伸浩	東大	22"55
4	三村瑞樹	東学大	22"60
5	谷田彪	群大	22"89
6	石原寛之	東学大	23"29
7	朝比奈達也	群大	25"09
8	神瀬龍平	埼大	26"11

## 男子 400m 決勝

1	小懸良平	埼大	48"87
2	大澤涉	東大	49"88
3	小金沢篤	東学大	50"37
4	山口貴美	東学大	51"81
5	拙島一樹	東大	50"99
6	坂本光	埼大	51"34
7	三森淳博	群大	51"53
8	谷田彪	群大	52"49

## 男子 800m 決勝

1	小林弘樹	群大	1'56"53
2	清沢創一	東学大	1'56"58
3	渡邊拓也	東大	1'57"47
4	石田真規	群大	1'58"95
5	池谷裕太郎	東学大	2'01"62
6	近藤堯之	東大	2'01"74
7	青山裕之	埼大	2'07"48
8	田口瞭	埼大	2'11"35

## 男子 1500m 決勝

1	福井雅俊	東学大	4'04"63
2	斉藤隼人	東学大	4'05"12
3	星野慎也	群大	4'06"27
4	田山俊希	群大	4'07"81

5	大内田弘太郎	東大	4'08"41
6	池田剛志	東大	4'09"81
7	稲葉伸正	埼大	4'10"40
8	桶田武	埼大院	4'17"62

## 男子 5000m 決勝

1	宮野健司	東大	15'03"49
2	福井雅俊	東学大	15'13"72
3	東大貴	東大	15'29"13
4	牛越晴生	東学大	16'19"99
5	圓谷光大	埼大	16'21"41
6	星雄介	埼大	16'38"20
7	佐藤貴昭	群大	17'25"32
-	星野慎也	群大	DNS

## 男子 110mH 決勝 (-1.3)

1	武井隼児	群大	14"74
2	志田望	東学大	14"95
3	酒谷彰一	東大	15"31
4	清水堯之	群大	15"47
5	今野拓也	東学大	15"79
6	増本健太郎	東大	15"94
-	高野大樹	埼大	DNS

## 男子 400mH 決勝

1	長島貴之	東学大	52"55
2	武井隼児	群大	53"05
3	小金沢篤	東学大	53"96
4	丸山紘大	埼大	54"94
5	清水堯之	群大	55"01
6	山田勝也	埼大	55"36
7	赤木裕	東大	56"98
8	高木海平	東大	56"99

## 男子 3000mSC 決勝

1	青木佑樹	東大	9'20"27
2	三上哲史	東学大	9'25"20
3	三澤秀匡	群大	9'32"47
4	渡邊駿	東大	9'42"09
5	樋上龍矢	埼大	9'46"13
6	小倉庸輔	群大	9'58"57
7	牛越晴生	東学大	10'00"33

8 須貝顕一 埼大院 10'19"23

---

男子5000mW決勝

1	山口貴史	東学大院	20'41"74(NGR)
2	村上格	東学大	21'15"04(NGR)
3	早川晃司	東大	21'23"56(NGR)
4	瀧川朗	東大	22'47"91
5	大竹良徳	群大	28'06"91
6	五十嵐良輔	群大	28'26"23

---

男子4×100mR決勝

1	東大	42"34
(増本-西田-真木-春日)		
2	埼大	42"35
3	群大	42"62
4	東学大	42"76

---

男子4×400mR決勝

1	埼大	3'18"79
2	東大	3'19"83
(真木-増本-拙島-大澤)		
3	東学大	3'20"40
4	群馬大	3'21"48

---

男子走高跳決勝

1	榎田明弘	埼大	1m95
2	松山直輝	東学大	1m86
3	坂本智	東大	1m80
4	地子智浩	東大	1m75
5	中嶋祐介	東学大院	1m70
6	岩木佑太	群大院	1m55

---

男子棒高跳決勝

1	田中充	群大	5m22(NGR)
2	谷村健宏	東学大	4m00
3	持永新	東大院	3m80
4	原湖楠	東大	3m40
-	三村瑞樹	東学大	NM

---

男子走幅跳決勝

1	西田昂広	東大	7m02(+0.2)
2	武安光太郎	東大院	6m73(-1.5)

3	中西俊紀	東学大	6m60(-0.4)
4	横山巧機	東学大	6m47(+0.3)
5	山田一輝	埼大	6m17(+0.9)
6	田中充	群大	5m86(+1.6)
-	田村友一	群大	DNS

---

男子三段跳決勝

1	横山巧機	東学大	14m04(+0.4)
2	武安光太郎	東大院	14m01(+0.0)
3	廣瀬彬	東大	13m37(+0.4)
4	山田一輝	埼大	13m33(-1.1)
5	梅木悠輔	群大	13m16(+0.4)
6	中嶋祐介	東学大院	13m12(-0.6)
7	岩崎大河	群大	12m83(-0.2)

---

男子砲丸投決勝

1	須田光	群大	11m49
2	小島聡	東学大	10m88
3	藤本深平	群大	10m71
4	遠島隆行	埼大	10m53
5	中西俊紀	東学大	10m43
6	片山卓也	東大	9m64
7	佐々木駿	東大	9m42
8	藤本深平	埼大	7m86

---

男子円盤投決勝

1	佐々木駿	東大	37m13
2	小島聡	東学大	36m91
3	田村祐太	群大院	35m50
4	武藤峻	群大	35m18
5	片山卓也	東大	30m49
6	今野拓也	東学大	23m24

---

男子やり投決勝

1	石川淳太郎	東学大	54m17
2	遠島隆行	埼大	51m14
3	中嶋祐介	東学大院	50m95
4	井汲大河	群大	50m51
5	石田真規	群大	49m37
6	千葉伸宏	東大	47m92
7	伊藤諒	埼大	47m48
8	山元明人	東大	46m43

## 男子トラック順位

1	東学大	76
2	東大	75
3	群大	43
4	埼大	37

## 男子フィールド順位

1	東学大	49
2	東大	44
3	群大	32
4	埼大	19

## 男子総合順位

1	東学大	125
2	東大	119
3	群大	75
4	埼大	56

## 女子100m決勝(-1.5)

1	五味未菜子	東学大	12"75
2	菱沼美穂	埼大	12"96
3	萩原さやか	埼大	13"06
4	久保木結	東大	13"27
5	高橋翠	東大院	13"84
-	小菅昌子	東学大	DNS

## 女子200m決勝(-0.5)

1	五味未菜子	東学大	26"05
2	菱沼美穂	埼大	26"26
3	萩原さやか	埼大	26"28
4	青木己奈	東学大院	26"68
5	堀越彩香	東大院	28"13
-	鈴木彩夏	東大	DNS

## 女子400m決勝

1	西野愛梨	東学大	58"70
2	萩原さやか	埼大	59"15
3	佐藤実可子	群大	1'02"15
4	堀越彩香	東大院	1'03"50
5	西山侑里	東学大	1'04"61

6	鈴木彩夏	東大	1'06"02
7	鈴木詩織	群大	1'06"87
-	菱沼美穂	埼大	DNS

## 女子800m決勝

1	浜松由莉	東大	2'23"89
2	増田有里子	東大	2'32"39
3	山村稚香	東学大	2'38"73
4	鈴木詩織	群大	2'41"69
-	高安由姫	東学大	DNS

## 女子1500m決勝

1	広江早紀	東学大	4'52"27
2	安藤綾香	群大	5'23"48
3	杉本南	東大	5'24"79
4	立岡美夏子	東大	5'33"17
5	高久沙織	埼大	5'33"17(着差あり)
-	森田ゆかり	東学大	DNS
-	狩野温子	群大	DNS

## 女子3000m決勝

1	柴田千歳	東学大	9'59"35
2	渡邊望帆	東学大	11'09"55
3	鈴木恵美里	東大	11'13"75
4	杉浦奈美	東大	11'17"13
5	石橋斐子	埼大	11'37"56
-	狩野温子	群大	DNS

## 女子100mH決勝(-0.4)

1	西野愛梨	東学大	14"34
2	中嶋はるみ	埼大	14"82
3	久保木結	東大	15"12
4	山崎芽衣	東学大	15"22
5	高橋翠	東大院	16"81

## 女子4×100mR決勝

1	東学大	48"75
2	埼大	49"63
3	東大	53"59
(武田-久保木-浜松-鈴木綾)		
4	群大	54"04

## 女子走高跳決勝

1	飯野智子	東学大	1m60
2	井上七海	東学大	1m55
3	丹家里枝	東大	1m45
4	久保木結	東大	1m40
5	佐藤実可子	群大	1m35

## 女子走幅跳決勝

1	田澤愛	東学大	5m45(+0.5)
2	廣川美沙紀	東学大	5m41(+1.6)
3	中嶋はるみ	埼大	4m83(+0.0)
4	武田有希子	東大	4m58(+0.5)
5	丹家里枝	東大	3m74(+0.3)

## 女子砲丸投決勝

1	富沢舞子	埼大	11m34
2	山崎芽衣	東学大	10m42
3	河原真弥	東学大	10m06
4	桑原渚	群大	9m89
5	武田有希子	東大	8m95
6	楠木千尋	東大院	8m50

## 女子円盤投決勝

1	富沢舞子	埼大	41m15
2	武田有希子	東大	33m54
3	桑原渚	群大	25m32
4	楠木千尋	東大院	20m32

## 女子やり投決勝

1	鷓生川早紀	東学大院	38m04
2	岡野愛美	東学大	36m05
3	桑原渚	群大	32m97
4	富沢舞子	埼大	29m93
5	中嶋はるみ	埼大	26m38
6	楠木千尋	東大院	20m63
7	増田英莉	群大	20m25
8	高橋翠	東大院	16m54

## 女子トラック順位

1	東学大	59
2	東大	43
3	埼大	36

4 群大 12

## 女子フィールド順位

1	東学大	42
2	東大	24
2	埼大	21
2	群大	13

## 女子総合順位

1	東学大	101
2	東大	67
3	埼大	57
4	群大	25

## 2 2010年度部内5傑 2010.7.3 現在

\*学年は2010/4/1時のもの

## 男子 100m

1	西田昂広(4年)	10"83(+0.1)	5.15
2	春日慶輝(3年)	11"15(+1.8)	5.8
3	菊池典晃(2年)	11"47(+0.5)	5.5
4	真木伸浩(2年)	11"51(-0.5)	4.25
5	増本健太郎(4年)	11"52(-1.2)	4.25

## 男子 200m

1	西田昂広(4年)	22"16(+0.1)	7.3
2	真木伸浩(2年)	22"55(+0.1)	7.3
3	春日慶輝(3年)	22"67(+0.5)	7.3
4	増本健太郎(4年)	22"84(-1.1)	6.13
5	舩島一樹(3年)	22"93(-1.1)	6.13

## 男子 400m

1	大澤渉(2年)	49"53	6.13
2	舩島一樹(3年)	50"99	7.3
3	小松侑太(3年)	52"34	6.13
4	水上雄太(4年)	52"85	5.1
5	原湖楠(4年)	54"06	4.24

## 男子 800m

1	渡邊拓也(4年)	1'55"98	5.30
2	園部竜也(4年)	1'59"55	5.1
3	近藤堯之(4年)	2'00"37	5.5
4	須田遊人(5年)	2'00"98	6.27
5	池田剛志(3年)	2'01"18	6.13

## 男子 1500m

1	東大貴 (3年)	4'00"59	6.13
2	池田剛志 (3年)	4'06"42	5.29
3	山田竜也 (3年)	4'06"83	4.17
4	大内田弘太郎 (2年)	4'07"25	5.1
5	渡邊拓也 (4年)	4'08"27	3.25

## 男子 5000m

1	宮野健司 (3年)	14'56"00	5.2
2	東大貴 (3年)	15'05"04	4.3
3	青木佑樹 (3年)	15'09"83	5.29
4	山田竜也 (3年)	15'21"04	4.18
5	渡邊駿 (2年)	15'36"18	5.30

## 男子 10000m

1	東大貴 (3年)	30'46"98	5.1
2	宮野健司 (3年)	30'51"94	5.1
3	青木佑樹 (3年)	31'42"51	5.1
4	大久保翔平 (2年)	33'16"65	5.1
5	中島圭一 (4年)	33'21"52	4.17

## 男子ハーフマラソン

1	東大貴 (3年)	1:08'20"	5.23
2	宮野健司 (3年)	1:09'06"	5.23
3	青沼和幸 (2年)	1:20'22"	4.11
4	渡邊陽大 (2年)	1:25'36"	4.11

## 男子 110mH

1	酒谷彰一 (4年)	15"25(+1.9)	5.4
2	増本健太郎 (4年)	15"81(+1.2)	4.3
3	江間輝裕 (4年)	15"87(+2.0)	5.5
4	杉森康平 (1年)	17"61(-1.2)	7.3
5	谷口尚史 (2年)	17"70(-1.2)	7.3

## 男子 400mH

1	酒谷彰一 (4年)	56"35	6.13
2	高木海平 (3年)	56"39	6.13
3	赤木裕 (4年)	56"90	6.13
4	江間輝裕 (4年)	57"46	6.5

## 男子 3000mSC

1	青木佑樹 (3年)	9'20"27	7.3
2	渡邊駿 (2年)	9'42"09	7.3
3	山田竜也 (3年)	9'54"75	7.3
4	岩川純也 (2年)	10'00"27	7.3
5	渡邊拓也 (4年)	10'07"12	4.11

## 男子 5000mW

1	早川晃司 (4年)	21'06"56	4.29
2	瀧川朗 (2年)	22'27"53	6.13
3	堀田樹生 (1年)	24'33"90	7.3
4	近藤健一 (1年)	24'46"17	7.3
5	井上雄介 (4年)	27'43"58	7.3

## 男子 10000mW

1	早川晃司 (4年)	43'57"57	3.25
2	瀧川朗 (2年)	46'23"46	3.25
3	井上雄介 (4年)	53'46"56	5.3

## 男子 走幅跳

1	西田昂広 (4年)	7m13(+1.9)	6.13
2	飯島靖成 (1年)	6m72(+0.0)	7.3
3	真木伸浩 (2年)	6m13(+0.8)	4.24
4	酒谷彰一 (4年)	6m08(+2.0)	4.24
5	沢登良馬 (1年)	5m86(+1.6)	6.13

## 男子 三段跳

1	西田昂広 (4年)	13m37(+1.7)	4.3
2	廣瀬彬 (5年)	13m37(+0.4)	7.3
3	杉森康平 (1年)	12m30(+0.7)	7.3
4	沢登良馬 (1年)	12m16(-0.2)	7.3

## 男子 走高跳

1	坂本智 (4年)	1m80	5.2
2	地子智浩 (5年)	1m75	7.3

## 男子 棒高跳

1	土居富裕 (3年)	3m60	6.13
2	原湖南 (4年)	3m50	4.3

## 男子 砲丸投

1	佐々木駿 (2年)	10m81	6.13
2	片山卓也 (2年)	9m64	7.3
3	原湖楠 (4年)	9m63	4.24

## 男子 円盤投

1	佐々木駿 (2年)	38m02	4.3
2	片山卓也 (2年)	31m98	5.5
3	原湖楠 (4年)	29m52	4.25

## 男子 やり投

1	千葉伸宏 (4年)	47m92	7.3
2	山元明人 (1年)	46m43	7.3
3	原湖楠 (4年)	40m77	4.3
4	今村昌平 (2年)	33m13	4.3
5	山東誉英 (2年)	32m03	6.13

## 男子 十種競技

1 原湖楠(4年) 4806点 4.24-25

## 女子 100m

1 久保木結(2年) 13"27(-1.5) 7.3  
 2 鈴木理香(2年) 13"66(-2.0) 4.10  
 3 高山花子(4年) 14"41(-1.8) 4.3

## 女子 400m

1 久保木結(2年) 1'04"63 4.18  
 2 浜松由莉(2年) 1'05"94 5.5  
 3 鈴木彩夏(1年) 1'06"02 7.3  
 4 鈴木理香(2年) 1'06"03 4.10  
 5 高山花子(4年) 1'08"98 5.1

## 女子 800m

1 浜松由莉(2年) 2'23"32 5.1  
 2 増田有里子(1年) 2'30"95 6.13  
 3 岩上佳世(2年) 2'44"09 5.1  
 4 鈴木恵美里(3年) 2'54"10 3.25

## 女子 1500m

1 杉浦奈実(2年) 5'18"06 4.3  
 2 立岡美夏子(2年) 5'18"25 4.3  
 3 杉本南(1年) 5'24"79 7.3  
 4 鈴木恵美里(3年) 5'30"65 4.25

## 女子 3000m

1 杉浦奈実(2年) 11'07"70 5.1  
 2 鈴木恵美里(3年) 11'13"75 7.3  
 3 立岡美夏子(2年) 11'48"47 5.1  
 4 杉本南(1年) 12'47"27 6.13

## 女子 100mH

1 久保木結(2年) 15"12(-0.4) 7.3

## 女子 走幅跳

1 高山花子(4年) 5m08(+1.8) 6.13  
 2 武田有希子(1年) 4m58(+0.5) 7.3  
 3 丹家里枝(2年) 3m74(+0.3) 7.3

## 女子 走高跳

1 丹家里枝(2年) 1m45 4.25  
 1 久保木結(2年) 1m45 6.13

## 女子 砲丸投

1 武田有希子(1年) 9m10 6.13

## 女子 円盤投

1 武田有希子(1年) 34m70 6.13

## 女子 やり投

1 武田有希子(1年) 23m05 6.13

## 3 自己記録更新者一覧 2010.6.14~7.3

## 7/3 国立四大学対校陸上競技大会

200m 西田昂広(4年) 22"16(+0.1)  
 200m 近藤堯之(4年) 24"65(+1.5)  
 1500m 杉本南(1年) 5'34"79  
 3000m 杉浦奈美(2年) 11'13"75  
 5000m 鈴木俊輔(3年) 16'30"59  
 3000mSC 青木佑樹(3年) 9'20"27  
 3000mSC 渡邊駿(2年) 9'42"09  
 3000mSC 山田竜也(3年) 9'54"75  
 5000mW 近藤健一(1年) 24'46"17  
 砲丸投 片山卓也(2年) 9m64

## 4 主務より

## 4.1 応援OB・OG紹介

上尾陸上競技場にて行われました四大戦に際し、  
 応援に駆けつけて下さったOB・OGの皆様のご  
 氏名を報告いたします。(敬称略)

1979年卒 中谷敬二  
 1983年卒 八田秀雄  
 1991年卒 小野満  
 1999年卒 明石顕  
 2001年卒 岡野浩行  
 2005年卒 春木洋輔  
 2007年卒 片岡哲朗  
 2008年卒 今村岳  
 2008年卒 持永新  
 2008年卒 山本卓典  
 2009年卒 梶井駿介  
 2009年卒 小福田大輔  
 2009年卒 菅野雄大  
 2009年卒 武安光太郎  
 2010年卒 日下桃子  
 2010年卒 楠木千尋  
 2010年卒 西川鋭  
 2010年卒 横田祥

ご多忙の中、お越し下さいましたことに現役部  
 員一同、心より御礼申し上げます。

## 4.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

- 七大戦  
7/31(土)・8/1(日) 名古屋・瑞穂
- 一橋戦(主管)  
9/4(土) 駒場グラウンド
- 日本インカレ  
9/10(金)・11(土)・12(日) 国立競技場
- 関東大学女子駅伝  
9/26(日) 千葉・印西市
- 京大戦  
10/9(土) 京都・山城
- 箱根駅伝予選会  
10/16(土) 国立昭和記念公園
- 第12回東大競技会  
10/30(土)・31(日) 駒場グラウンド
- 第1回ディスタンスチャレンジ  
11/28(日) 駒場グラウンド

## 4.3 訃報

誠に残念なお知らせですが、1947年(昭和22年)卒の月見里禮次郎先輩が、6月22日に静脈瘤のため、亡くなりました。月見里先輩は、1985～1988年の4年間、陸上運動倶楽部の理事長を務められました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL : 03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail : seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:早川晃司

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 3-39-11

TEL : 090-5761-9980

FAX : 0422-47-8726

E-mail: shumu@uttf.org

\*この部便りは下記 web ページでもご覧になれます\*

<http://www.uttf.org/>

\*また、現在、陸上運動倶楽部のメーリングリスト「uttf club」にて、大会結果の速報および部便りのメール送付等を行っております。メーリングリストへの登録をご希望の方、もしくは部便りの郵送不要の方は、お手数ですが学生主務までご連絡下さい\*

主務 早川晃司

文責：木内久雄